病院図書館　2005；25(4)：153-156

特集1　コメディカル部門を知る

東洋医療系専門学校図書室の利用者への関わり方 ー蔵書と広報活動についてー

瀬戸 嘉枝

Ⅰ．はじめに

当校は東洋医療系の専門学校で、学生は鍼・灸・按摩、マッサージ、指圧の専門技術と国家試験受験資格を習得する。東洋・西洋両方の医学を学習するが、使用している教科書を見てみるとおよそ西洋医学が6割、東洋医学が4割で、西洋医学の科目の方が多い。

授業は1年生から座学と実技があり、東洋と西洋の両方を学習する。1年生の西洋医療系では基礎になる解剖・生理を中心に正常な身体のことを学習し、2年生になってからは病気になった身体（病理学）のことを中心に学習する。3年生では臨床医学総論・各論を西洋医学の病名で学習する。東洋医療系では中国の歴史からはじまり、東洋思想（陰陽五行）や東洋医学的な人の身体の診かたや治療法にいたるまでを3年間かけて学習する。加えて、当校は日本体育協会公認アスレティックトレーナー適用コースの認定校でもある。

Ⅱ．蔵書

1．蔵書の特色

専門学校図書室の特色が一番良く出るのは、蔵書（書籍・雑誌・視聴覚資料）の内容だと思う。学校なので、教科に関連する書籍はすべて揃えてあるが、その中でも東洋医学分野は力を入れて収集してきた。アスレティックトレーナーコースの授業が加わってからは、スポーツ医科学分野の書籍も増加している。

せと　よしえ：神奈川衛生学園専門学校

雑誌についても東洋医学分野が充実している。ごくまれに一般の図書館（大学や公共図書館）から相互貸借の問い合わせを受けることがある。所蔵している機関がなかなか見つからなかったという話も聞く。試しに NACSIS Webcat（全国の大学図書館などが所属する図書・雑誌の総合目録データベース）で当図書室で所蔵している東洋医学関連雑誌の所蔵機関数を調べてみた（表1）。結果は全体的に少なく、所蔵機関0という雑誌もあった（「鍼灸の世界」はタイトルが同じものがあったが発行所が違っていた）。NACSIS Webcat では東洋医学系機関の参加が非常に少ないことがわかる。また調べていて、タイトルをすべて入れるとヒットしないものもあった（タイトルの一部で再検索をするとヒットした）。さらに医中誌 Web で調べてみると、NACSIS Webcat では所蔵機関0という雑誌が3誌あったが、当図書室で所蔵している東洋医学関連の雑誌は1誌（「鍼灸の世界」）を除き、すべてが収載されていた。このような結果を考えると、東洋医学分野の雑誌は、医中誌 Web の検索ではヒットはするが、実際に所蔵している機関を探すのは困難であることがわかる。

2．選書[1)2)]

選書は学生、教職員からのリクエスト書と担当者による選定書を、年5回に分けて教職員と担当者で選定している。選定時には、担当者が選定書のリストとともに選定対象となる書籍情報（リクエスト理由が書いてあるリクエスト用紙やその書籍のパンフレット、インターネット

表1．当図書室所蔵の東洋医学関連雑誌とNACSIS Webcatの所蔵図書館数（2005/12/02現在）

タイトル	発行所	NACSIS Webcatの所蔵図書館数
医道の日本	医道の日本社	19
漢方の臨床	東亜医学協会	60
月刊手技療法	たにぐち書店	2
中医臨床	東洋学術出版	15
鍼灸の世界	桜雲会点字出版部	0
日本温泉気候物理医学会雑誌	日本温泉気候物理医学会	82
日本東洋医学雑誌	日本東洋医学会	59
全日本鍼灸学会雑誌	全日本鍼灸学会	24
日本伝統鍼灸学会雑誌	日本伝統鍼灸学会	0
鍼灸OSAKA	大阪鍼灸専門学校出版部	5
東洋療法学校協会学会誌	東洋療法学校協会	0
東洋医学とペインクリニック	大阪医科大学麻酔学教室	26
明治鍼灸医学	明治鍼灸大学	65
日本手技療法学会雑誌	日本手技療法学会	2
経絡治療	経絡治療学会	8
臨床針灸	日本臨床鍼灸懇話会	3
関西鍼灸大学紀要	関西鍼灸大学	35
鍼灸手技療法教育	あはき教育研究懇話会	8

からの書籍情報のプリントなど）を全職員に回覧している。回覧することによって、図書室利用の少ない職員には図書室の存在をアピールすることにもなり、よく利用している職員にはリストのチェックをしてもらうことができる。

選書をする担当者はさまざまな選書ツール（出版社からの新刊案内やインターネット上の書籍情報など）に目を通す必要がある。それと共に日頃の利用者との会話も大切だ。利用者との会話を通して、どんな資料を求めているのか、今どんな分野が不足しているのかなどの情報が得られる。また、東洋医学の場合は書店経由では購入が難しい書籍もあり、通常の情報源だけでは見逃してしまうこともある。そのため専門分野に詳しい利用者からの情報はとても貴重になってくる。

Ⅲ．広報活動

1．オリエンテーション

当図書室では学生に対し、卒業までの3年間で4回のオリエンテーションを実施している（表2）。しかし1年次20分、2年次5分の説明では、図書室の資料を十分理解してもらえないまま3年生になってしまう。特色がある蔵書は利用者が見つけるのを待つだけでなく、図書室側から紹介する必要もあると思う。常連の利用者には紹介する機会もあるが、できれば1年生のうちに「図書室内資料の案内」という内容のオリエンテーションを実施したいと考えている。3年生は卒業直前にもオリエンテーション

表2．オリエンテーション実施一覧

実施時期	内容	場所	時間
1年：4月	図書室利用案内	図書室	20分
2年：4月	入学時案内の補足説明	自教室（またはAVホール）	5分
3年：4月	国家試験問題集等の説明	自教室（またはAVホール）	5分
3年卒業時：3月	卒業後の利用案内	AVホール	30分

を実施している。以前は掲示や配布資料を使って連絡していたが、それでは全員には伝わっていなかった。学生の中には卒業後に図書室が使えないと思っている人までいた。姉妹校である東京衛生学園（以下、東京校）の図書室も卒業後に利用できるので、東京都内で仕事をする学生にとってはとてもありがたい存在になるはずだ。卒業前の利用案内について、教員に相談した結果、3年生の最終登校日に30分ほど時間をつくってもらえた。内容は卒業後の図書室の利用方法や卒業後の資料の探し方などで、Power-point を使いながら30分間の説明をした。内容がまだ薄く担当者の不慣れもあったが、実際に利用者に向き合っての説明は以前よりも手応えを感じられた。

オリエンテーションはプレゼンテーション技術が重要になってくる[3]。どうしたら効果的に実施できるのか。事前に十分準備し、回数を重ねながら学んでいきたい。

2．掲示

掲示は、利用時間の変更などのお知らせのほか、新刊案内、毎月のホームページ記事の内容などを掲示している。新刊案内は書籍の背表紙をコピーして作成している（図1）。ホームページ記事は毎月の更新部分を掲示している。ホームページの内容を、わざわざ掲示するのは無駄だと思われるかもしれないが、常に図書室のホームページをチェックしている学生は少数だと思う。在校生の場合、まずは掲示で知らせた方が効果がある。定期的に掲示することで、ホームページを更新していることを伝えられる。これらの掲示物は1階の専用掲示板（図2）と1階エレベーター前の掲示板にも掲示している。図書室は4階にあるので、1階の掲示板の存在は大きい。以前は白黒印刷を掲示していたが、カラー印刷にしてからは注目度が増したようだ。また展示として、図書室内のビデオコーナーに経穴人形を置き、壁には経穴図を張った（図3）。カウンター近くには鍼の模型ケース（図4）を置いた。学校見学者や入学したばかりの1年生に好評のようだ。

図1．

図2．

図3．

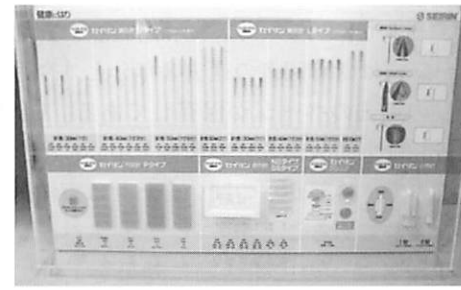

図4．

3．ホームページ

当図書室のホームページ（図5）は1997年7月にスタートした。デビューは早かったが、担当者のパソコン技術不足とセンス不足のせいで2005年現在も見た目は垢抜けないままでいる。それでも情報量はやっとどうにかたまってき

図５．

た。塵も積もれば…ということだ。ホームページは利用案内のほかに、「所蔵雑誌リスト」「今月の新着図書」「所蔵書籍のご紹介」「今月の一冊」「教職員シリーズ（教職員によるエッセイ、本の紹介）」のコーナーがある。「教職員シリーズ」と「今月の一冊」はどちらか一つを交互に更新するようにしている。「所蔵書籍のご紹介」のページには新着図書の過去３年分と「今月の一冊」の過去のページが保存してある。「今月の一冊」は東洋医学分野の図書を中心に紹介しているので、外部からの問い合わせは東洋医学関連の図書であることが多い。ホームページは卒業生や外部への広報活動に効果を上げている。2003年からは東京校の情報科学研究部の支援により、インターネット上で東京校・神奈川校の蔵書が検索できるようになった（現在、学内専用）。利用する学生も徐々に増え、両校の相互貸借にも役立っている。

広報活動はどれが一番良いということではなく、その場に応じた方法を取り入れ、できるだけ多くの利用者に知ってもらうことが大事だと思う[4]。図書室の PR 活動は担当者の力だけでは難しいことが多い。他部署や利用者に助けてもらいながら、無理せず地道に続けることが大切だと思う。

Ⅳ．おわりに

東洋医学関連の専門書や雑誌は公共図書館や書店で探すことは難しい。品切れや絶版になっているものも多く、医学書コーナーがある書店でも見つけられない場合がある。このような状況を考えると、学校以外で東洋医学関連の資料を探すのはとても大変なことだと思う。在校中からさまざまな PR をし、卒業後も安心して利用できる図書室をめざしたい。

参考文献

1）押田いく子：医学図書館の蔵書構築.日赤図書館雑誌. 2004；11(1)：21-4.

2）押田いく子：大学図書館における選書の一例.病院図書館. 2005；25(1･2)：3-7.

3）仁上幸治：大学図書館員のためのオリエンテーション技法　印象づけを重視した構成・演出の改善の試み. 医学図書館. 2005；52(1)：15-24.

4）岡野純子：慶應義塾大学図書館・JMLA加盟館への図書館広報活動に関するアンケートを実施して 図書館のよりよい広報活動を考える. 医学図書館. 2002；49(1)：22-8.